

はじめに

私のウォーキングは、平成 12 年 5 月 3 日（水）、多摩川の河川敷から始まりました。その動機は、健康管理やストレス解消等からの軽い気持ちからでした。これからの 6 ヶ月間で、自分なりのウォーキング（鉄道つたい歩き）を見つけ出し、それが起爆剤となり、第 1 回わいわい会へのアプローチになったような気がします。すなわち、平成 12 年 11 月 3 日（金）、関東桜紫会の幹事会で活躍された乾 忠史氏の送別会を機に企画した歩き会プランです。このプランがお蔭様で功を奏し、高松第一高等学校の同窓生を中心とする歩き会「わいわい会」への路へと発展したような気がします。翌年、同好会として幹事会の承認を得て、正式に「わいわい会」と命名させて頂きました。



最初のわいわい会です
（世田谷線の豪徳寺）

この「わいわい会」が、つもりつもって 2025 年 12 月 6 日（土）の開催で 100 回目の誕生日を迎えるとは夢のようです。しかも、コロナ禍の影響で 7 回の中止を除き、天からの恵みもあり一度も休むことなく達成できるとは。これまでの感謝の気持ちと熱い思いを、「わいわい道中記／50 回記念号」（書籍）に引き続き、今回「わいわい道中記／100 回記念号」（デジタル著書 PDF 読本）の形で発行し、ウォーキングを通じて美しい日本の風景や文化、そして同窓の人情味あふれる強い絆等を、母校の在学生や卒業生に加え、日本や海外の読者にも PR できればと考えています。加えて、この道中記を通じて、う

どん県香川の魅力のほかに、伝統ある母校“高松第一高等学校”、香川県を主地盤とする桜紫会、関西を地盤とする関西桜紫会、そして関東を地盤とする関東桜紫会の活動状況や結束力等が、日本全国そして広く海外の同窓会にも PR できればと考えています。



わいわい会 100 回記念祝賀会（2025 年 12 月 6 日（土）、元町・中華街“菜香”）

今回の 100 回記念号の発行に当たって、巻頭言で執筆頂いた 谷本静男氏（関東桜紫会顧問）をはじめとする母校の関係各位から多大なご尽力を頂きました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。最後までお読み頂ければ幸いです。

2025 年 12 月

高松一高関東桜紫会

わいわい会主幹事 檜原 勉

<目次>

はじめに	1
第1章 わいわい会とは	4
第2章 わいわい道中記 50 回振り返り	12
第1節 第1回～第10回	
第2節 第11回～第20回	
第3節 第21回～第30回	
第4節 第31回～第40回	
第5節 第41回～第50回	
第3章 わいわい道中記 51 回～100 回	
第1節 2013 年（第 51 回～第 52 回）	34
第2節 2014 年（第 53 回～第 56 回）	49
第3節 2015 年（第 57 回～第 60 回）	79
第4節 2016 年（第 61 回～第 64 回）	106
第5節 2017 年（第 65 回～第 68 回）	132
第6節 2018 年（第 69 回～第 72 回）	159
第7節 2019 年（第 73 回～第 76 回）	191
第8節 2020 年（第 77 回～第 80 回）	228
第9節 2021 年（第 81 回～第 84 回）	235
第10節 2022 年（第 85 回～第 88 回）	244
第11節 2023 年（第 89 回～第 92 回）	285
第12節 2024 年（第 93 回～第 96 回）	328
第13節 2025 年（第 97 回～第 100 回）	369
第4章 思い出に残るシーン	419
各自からの投稿文を掲載	
あとがき	437